

調査研究推進委員会 セミナー開催報告

科研申請アドバイスセミナー 日本語教育学における科研の今とこれから

主催：日本語教育学会 調査研究推進委員会

日時：2021年5月23日（日）12:40～13:20

zoomによるオンライン開催

参加者：最大70名



本セミナーは、日本語教育学分野での科研費（科学研究費助成事業）への応募、ならびに応募する研究計画の質の向上などを目的として開催されました。昨年度の春季大会が開催中止となったため2年ぶりの開催となり、またzoomによるオンライン形式での実施となりました。

参加者には事前に委員会で作成した動画を視聴していただくことをお願いしました。そこでは、科研費の概要、申請時の手続きに関する注意事項、日本語教育学研究の領域やテーマ、研究計画書作成のためのポイントについて説明を行いました。セミナー参加希望者からはそれらに基づいた質問を寄せていただき、委員会側で検討を重ねたうえで、当日に臨みました。

当日のセミナーは、Q&Aセッション、交流セッション、事後アンケートの3部構成で実施しました。まず、Q&Aセッションでは参加者の質問とそれへの回答を委員会側が提示し、説明するという流れをとりました。質問は6つで、研究者番号、採択テーマ、採択されるメリット、審査員、研究計画の途中変更、そして研究遂行の際のアドバイザーに関するものです。（なお、ここでの回答は委員会としての見解であり、学会のそれではありません）

続いて交流セッションはブレイクアウトの形式をとり、3～4名ずつのグループに分かれて約10分間にわたり自由に意見交換を行い、自身の経験や情報の共有をしていただきました。そこでは、特に科研費申請にあたっての共同研究者の探し方に関する話題を中心に、熱心に意見交換がなされました。その後ふたたび全体セッションに戻り、ここでは、大学に所属していない教員には研究や発表の意識は低く、授業を全うすることを第一義と考えるのではないかと、との指摘もありました。

終了後のアンケートには20名弱の方から回答をいただきました。参加理由には「科研費の申請予定があり、情報収集のため」のほか、「採択されなかったため」「最近の動向を知りたかったため」などがありました。セミナーで最も参考になったこととしては「ブレイクアウトセッションで科研費をとった方の生の声」との回答が複数あったほか、「協力者の謝礼の相場が聞けたこと」、また「スライド、ビデオが役に立った」という声も多数ありました。

交流セッションについても概ね好意的な反応がいただけましたが、採択事例をもっと示してもらいたい、科研費以外の助成金の情報がほしいといったもののほか、「ブレイクアウトにすると、科研費自体が分からず基本的情報を知りたい人には参加しづらい」との回答もあり、委員会として今後の課題となりました。また、今後の希望としては事例のさらなる提供のほか、審査通過のコツ、書類の改善例など、より具体的な説明がほしいとの声が聞かれました。

委員会としては、秋季大会での研究倫理セミナーとあわせ、本セミナーもビデオ化を通して一定の形ができつつあると考えています。今後はビデオの恒常的な公開も視野に入れると同時に、アンケートへの回答内容を大事にして、委員会の果たせる役割と可能性を考え、日本語教員の研究活動の推進と諸課題の解決に役立てるよう検討を進めていく予定です。

(文責：調査研究推進委員会)